

平成26年度 府立亀岡高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）実施段階

学校経営方針		昨年度の成果(○)と課題(△)	本年度学校経営の重点		
<p>生徒一人一人が個性や能力を伸長させ、自立的に社会に参画し、人権尊重を基盤として、共に支え合いながら、地域社会の一員としての役割を果たすことが求められています。</p> <p>このため、教育目標や教育方針に基づき、数理科学科・普通科・芸術系が、それぞれの特色や持ち味を生かしながら、切磋琢磨し、学校の活性化を図ります。</p> <p>特に、次の3点を学校経営の基本方針とします。</p> <p>(1) 質の高い学習指導と確かな進路実現の具現化 (2) 社会的自立を図るために必要な能力の育成 (3) 地域・保護者に信頼される学校づくり</p>		<p>○数理科学科グローバルサイエンスの充実 高大連携、スマート研修をはじめ、特色ある取組が地域から評価され、志願者の増加につながった。</p> <p>○芸術系の充実 伝統文化フェスティバルへの出品、地域連携・他校種連携など特色ある取組が増加した。</p> <p>○広報活動、学校公開の充実 学校の活動を多くの中学生・保護者に伝えることができた。</p> <p>△国公立大学50人以上合格 合格者は29人。地元私大の希望者が増加した。</p> <p>△家庭学習時間の不足 学力向上に不可欠である。</p> <p>△「社会に通じる人」を育てる 指針となる「Can-Doリスト」の活用が不十分である。</p>	<p>(1) 授業内容の質的改善・充実 (学習意欲を高める授業の創造)</p> <p>(2) 高い目標へとチャレンジする生徒の育成 (国公立50人プロジェクト継続と実現)</p> <p>(3) 規範意識の向上と社会性の確立</p> <p>(4) 部活動の活性化とあいさつ運動 (素直さ、明るさ、真面目さの定着)</p> <p>(5) 人権教育活動の推進 (あらゆる教育活動に人権の視点)</p> <p>(6) 広報活動の徹底 (本校の教育内容の周知と理解)</p>		
<p>評価</p> <p>A 十分達成できている(目標以上の成果が得られた)</p> <p>B ほぼ達成できている(ほぼ目標どおりの成果が得られた)</p> <p>C 達成できているとはいえない (成果はあったが、目標に達していない)</p> <p>D ほとんど達成できていない(ほとんど成果がなかった)</p>					
評価領域	重点目標		評価		成果と課題
組織・運営	魅力ある学校づくりの取組	国公立大学合格者50人以上(国公立50人プロジェクト)	B	B	国公立大学32名合格。近隣の私立大学を志望する生徒が多い。授業改善が進んでいる。授業評価は全教員が実施。京都大学、京都工芸繊維大学、京都学園大学と協定に基づき連携。地域連携、小学校連携、陶芸など特色ある取組が多い。志願者が減少した。広報や中学生の希望状況等、分析が必要。昨年度教育課程を変更。27年度より1年生は共通カリキュラム。地域連携など学校評議員の意見を取り入れた経営計画の策定。教職員の意識が深まる。今後は指導方法と評価方法について検討。生徒の進路希望を実現することができる教育課程を作成すること。府立高校実力テストにおける成績は、上昇又はほぼ横ばい。図書館だより、集中読書などにより、貸し出し図書は増加傾向。作成したCan-Doリストを教育活動にどのように位置付けるか。遅刻は、1日平均4.3人。授業も落ち着いた雰囲気である。情報機器に関わるトラブルあり。有効な指導方法を研究すること。進路ホームルームなど、3年間の進路指導計画の具体化が必要。人権問題、いじめ問題など全教職員の研修会が開催できなかった。清掃活動にもよく取り組んでいる。部活動による清掃活動もある。
		学習意欲を高める授業の創造(授業評価の向上)	B		
		数理科学科のグローバルサイエンスの充実	A		
		普通科美術・工芸専攻の充実	A		
		広報活動・学校公開の充実(学校通信年6回発行と志願者増加)	B		
		各学科・コースの在り方を検討し、学校改革を推進すること	C		
学校評価制度の活用	学校関係者評価の実施	B	B		
校内連携の充実	特別支援教育体制のさらなる充実	A	A		
教育課程	特色ある教育課程の検討	生徒の希望進路を実現する教育課程の検討	B	B	
学習指導	学習習慣の確立	計画的な課題(宿題)の提示と家庭学習習慣の確立	B	B	
		読書活動の推進(貸し出し図書の増加)	B		
キャリア教育	キャリア教育の推進	Can-Doリストの実践と成果の検証	C	C	
生徒指導	規範意識の向上	基本的生活習慣の確立(一日平均遅刻6人以内)	B	B	
		情報モラルに関する指導の充実	C		
進路指導	進路指導	進路関係資料の有効な活用	C	C	
人権教育	人権教育の推進	教職員の認識を深化させる研修会の開催	C		
環境整備	美化活動の推進	美化意識の向上と清掃の徹底	B		
研究指定等	府立高校特色化事業(サイエンスネットワーク京都)				
学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・「魅力ある学校づくりの取組」が広まり、学校の特色がわかるようになってきた。「授業改善」「学力伸張」にも努力している。 ・学力だけではなく、幅広い人間性を身に付けられるような取組を充実させ、さらに地域から信頼される学校づくりを進めて欲しい。 				
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導について、一定の成果をあげている。今後は入学当初の指導を充実させ、低学年で基礎学力の充実を図ることが重要である。 ・「Can-Doリスト」を活用するとともに、生徒指導体制の確立に向けて有効な指導方法を検討する時期である。 ・生徒の課題が多様化している。特別支援教育、教育相談と学習指導、生徒指導が相互に機能するような体制づくりを進める。 				